

表 「人格」を軸としたキャリアパス

発達段階	成長のイメージ (子どもと保育者・職員の成長を重ねてイメージするために)	成長のフィールド
1	<p>保育現場で流れている時間に身を委ねる</p> <p>時間に身を委ねる。そうして、自分の中に湧き上がってくる感覚を一つひとつ大事にして生きる(野性の主体性)。中動的なあり方を生きる。(第2回)カラダで、その時間を満喫する。 「快・不快がないまぜになった、そのアクチュアリティを生きよう」</p> <p>人間を超えたもの(風、陽射し、水の冷たさ、泥のヌルヌル)の力を借りながら、生きている実感を味わう。</p>	
1.5	<p>心理的安全性の実感</p> <p>無知や無力をさらけ出すことで、貢献している。 「できない」「わからない」「助けて」を表出することで、貢献している。</p>	<p>母性的なサポート 「声をかけてくれたら応えるよ」 信頼感・安心感</p>
2	<p>「個人知」の発揮</p> <p>「1.5」の上で、「周囲の期待」を横に置いておいてくれる。しっかりと「自己決定」「自己発揮」「自己主張」(イヤイヤ期)をしてくれる。 【個人知】【その人なりのやり方、理解】</p>	
2.5	<p>「自分のやりたい保育(仕事)やりたいこと」と「自分に期待されている保育(仕事)やらなきゃいけないこと」との間で葛藤してくれる。(第3回)</p>	<p>父性的なサポート 「君はどうしたいんだ？」</p>
3	<p>「個人知」を「協働知」へ</p> <p>「保育園全体」を踏まえて「自分に期待されていること」を自分の力でつづけてくれる(もちろん、相談には乗るよ)。 【協働知】【組織の中でのやり方、理解】</p> <p>「自部門やグループに期待されていること」「自分に期待されていること」を理解し、自分たちで、自分たちのルール(順番、計画、約束、役割)をつくる。 グループ内における自己の役割を認識した上で、時間的見通しをもち自ら業務計画を策定し、主体的に取り組んでいる。</p>	<p>家族的な環境 集団の中での役割を見つける</p>
4	<p>「一般知」の獲得</p> <p>一つひとつの仕事・任務を、単なる作業(task)ではなく、仕事・作品(work)へと高める。 その際、自分の「こだわり」を大事にする。 その「こだわり」を作品にするために、試行錯誤をしながら(失敗と成功を繰り返しながら)、「広い世界で通用する知識・技術(やり方)・情報」(専門知)を獲得する。(第3回) また、専門知を生かしながら、チームの仕事を練り上げ、メンバー・保護者・クライアントへの発信を始めてくれる。 【一般知(理論知)】【専門家としてのやり方、理解】</p>	<p>一般社会に出る 広い世界に飛び出す</p>
5	<p>専門家としてのあり方のみならず、「人としてのあり方・生き方」を模索する。 そこから「生き方の軸」、「目指すべき社会のあり方」や「仕事を通じて、社会的に生み出したい価値」を定める。その軸を、複数見つける。仕事を通じて、どういう生き方をしたいのか、それを考える。</p>	<p>生き方の軸を定める</p>
6	<p>「人としてのあり方」「生み出したい社会的な価値」を共有し、更新し、確かめ合える人とパートナーシップをつくる。</p>	<p>生き方を確かめ合う</p>
7	<p>④メンバーが安心して「無知・無力の露呈」ができる雰囲気をつくる(※「1」)。 ⑤毅然と、しかし、寛容に「メンバーに期待していること」を伝えている(※「2.5」)。 ⑥「生み出したい社会的価値」を次の世代と共に実現していく。</p>	<p>次世代の成長を支える社会でのリーダーシップの発揮</p>

※ 7は、「園長、副園長、主任」が一体となって行えばいい。園長：老子(大らか) 副園長：孔子(こまやか)